

陸連時報 三

2018
平成30年

4 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

強化関連情報.....	166
2018年シーズンの抱負(強化委員会)	
日本陸上競技連盟 強化委員会組織図/第8回アジア室内陸上競技選手権大会報告(女子跳躍・七種競技オリンピック強化コーチ 伊藤信之)	
【訂正】2018 日本グランプリ・開催期日及び種目配置.....	170
2017-2018ダイヤモンドアスリート第2回リーダーシッププログラム報告	
(ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介).....	171
国際陸上競技連盟 (IAAF) 技術委員会報告	
(陸連事務局国際担当部長 関幸生 (IAAF 技術委員会委員)).....	172
2017年度全国競技運営責任者会議報告(競技運営委員会).....	174
第22回JAAF コーチング・クリニック報告(普及育成委員会 原悦子).....	176
施設用器具委員会報告(2017-2)(施設用器具委員会).....	177
大会観戦ガイド.....	179
陸協NEWS.....	180
事務局からのお知らせ.....	182

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2018年シーズンの抱負

強化委員長 麻場 一徳

東京オリンピックまで残り約2年となる2018年度は、翌年に開催される世界選手権から導入されるワールドランキング制への対応など、新たなトライアルが求められる年となる。

2017年ロンドン世界選手権では、メダル3、入賞2という結果で、前年のリオデジャネイロオリンピックと比較し、メダルの数を1つ増やすことができた。男子4×100mリレーは連続でメダルを獲得するなど高いレベルでの安定感があり、競歩では2015年北京世界選手権、2016年リオデジャネイロオリンピック、2017年ロンドン世界選手権と3大会連続でメダルを獲得し、ゴールドメダルカテゴリーとしてふさわしい成果をあげることができた。

しかしながら、その他のメダルカテゴリー、TOP8カテゴリーでは課題が残されたのも事実であり、2020年に向けて克服すべきことが少なからずある。

2020年に最高の結果を残すために、これまで取り組んできた、各種目の競技レベルに応じ、種目に特化した強化施策を引き続き推進する。

2018年度の強化委員会の活動方針は以下のとおりである。

1. 東京2020オリンピックの目標

- ・東京オリンピックでのメダル及び入賞獲得
- ・東京オリンピック以降につながるレガシ構築

2. 目標達成のための主な課題

- ① 個々のパフォーマンスアップを目指した現強化策の充実
 - a. 山崎ディレクター（T&F種目）、河野ディレクター（長距離・マラソン）、今村コーチ（競歩）、土江コーチ（男子100m/200m/400mR）を中心とした強化策
 - b. アジア大会、世界選手権、オリンピックとつながる強化施策
 - ② 現強化策を推進させる体制の充実、強化
 - a. 強化・情報戦略部門の強化
 - ③ 現強化策をバックアップするサポート体制の充実、強化
 - a. 医・科学サポート体制の更なる充実
 - b. 競技会戦略、リレー戦略、ポイントランキング制対策、メディア戦略
 - c. マーケティング戦略
 - d. 実業団・学連との連携
 - e. 国際情報の収集及び海外展開の促進
 - ④ All JAPAN体制の確立
 - a. 上記①～③についての共通認識、共通理解
 - b. 情報の共有と連携
- ① 現強化システムの充実・発展
 - a. オリンピック強化コーチを中心とした強化システムの充実・発展
 - ② マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)の成功
 - a. 瀬古リーダーを中心とした取り組み
 - ③ ワールドランキング制への対応
 - a. 情報の収集と分析、共有
 - b. 強化戦略、施策、選手選考などへの反映
 - ④ 競技者育成指針を基にした競技会システムの確立
 - a. 競技会カレンダー

b. 種目設定・配置、標準記録、参加資格等

- ⑤ ダイヤモンドアスリート及びオリンピック育成競技者育成システムの充実

a. U16、U18、U20、U23の連動、連携を含む

3. 2018年度の目標

- 1) アジア競技大会（ジャカルタ）での成功（各カテゴリーが設定した目標の達成）
- 2) アジアジュニア（岐阜）、U20世界選手権（タンペレ）での戦略的な派遣と強化
- 3) 2019世界選手権、東京2020オリンピックにつながる戦略的活動

4. 2018年度の活動方針

- 1) ワールドランキング制に対応していくトライアル
 - ① 海外競技会への積極的参加とそのための拠点設置
 - ② 国内競技会カレンダーの整備とステータス向上への取り組み
- 2) リレー戦略の充実と推進
 - ① 男子4×100mリレーが金メダルを獲得するための特別強化策
 - ② マイルリレーのスピード化に対応する特別強化策
 - ③ 女子リレー及び男女混合リレーの積極的なトライアル
- 3) MGC成功へのプロセスの確立
- 4) 競歩強化戦略の更なる充実
- 5) 競技者育成指針を基にした育成から強化までの一環システム（日本陸連スタイル）構築
- 6) 日本代表のブランディングとマーケティング
- 7) 強化委員会の発信力強化

5. 2018年度の主な国際大会派遣

2018年度の最重要国際競技会は、アジア競技大会（ジャカルタ）である。

2019年世界選手権（ドーハ）からはワールドランキング制に基づいた参加資格が付与されることになり、大きな変化が予想される。その変化に柔軟に対応しつつも、各大会に向けては、選考要項に明記された編成方針に基づき日本代表として相応しいレベルの競技者を派遣する。

- 1) 第18回アジア競技大会（2018年8月 ジャカルタ）
- 2) 第28回世界競歩チーム選手権（2018年5月 太倉）
- 3) 第43回世界クロスカントリー（2019年3月 オーフス）
- 4) 第3回コンチネンタルカップ（2018年9月 オーストララ）
- 5) 第17回U20世界陸上競技選手権大会（2018年7月 タンペレ）
- 6) 第3回ユースオリンピックゲームズ（2018年10月 プレノスアイレス）
- 7) 第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会（2018年6月 岐阜）
- 8) 第3回ユースオリンピックゲームズ大陸予選（2018年7月 バンコク）
- 9) Decanation（2018年9月 フランス）
- 10) 第5回日中韓3カ国交流陸上競技大会（2018年7月 厚別）
- 11) 第26回日・韓・中ジュニア交流競技会（2018年8月 場所未定）
- 12) Nitro Athletics（時期未定 オーストラリア）

2018年シーズンの抱負(トラック&フィールド)

ディレクター 山崎 一彦

17年ロンドン世界選手権では、リオデジャネイロオリンピックに引き続き、男子50キロ競歩と男子4×100mRの連続メダル獲得することができた。これらの種目は、2020年東京オリンピックへ向けて、盤石な強化が進んでいるといえる。しかしながら、その他の種目では、入賞レベルに満たないことも明確となった。あと2年余りの強化をより具体的な方向性を持って行わなければ間に合わないことは明確となった。18年シーズンはアジア競技大会が重要競技会となるが、それと並行して、中期戦略的に以下のことを方針としていく。

1. 強化コーチは、年間を通して強化対象競技者の状況をより綿密かつ頻繁に把握できる人数に絞り、強化計画を進める。
2. 2019年ドーハ世界選手権から導入されるワールドランキング制に向けて、競技者がアジア、欧米競技会の状況を把握し、効率的にランキングを上げられる準備をしていく。
3. U23、U20の強化を実業団および学連と連携することによって、強化育成効率を向上させる。

メダルカテゴリー

4×100mRは、より個人の実力向上を重視し、冬期シーズンはバトン練習などのチーム練習は行わなかった。シーズンインをしてからは、競技会出場によるリレーバトンの精度を上げていくことや、今後の選手起用の戦術を模索していく。

男子400mH、男子棒高跳、男女やり投はより個人ターゲットを絞り、パーソナルコーチの指導を尊重し、より日常的な強化を実施していく。また、東京オリンピックのスケジュールを想定した場合、日本選手権前に余裕を持ってワールドランキングを上げていくことが重要となってくることから、5、6月のダイヤモンドリーグを中心とした参戦も視野に入れながら、日本選手権を向かえるようなスケジュールに慣れておくようにする。

TOP8カテゴリー

アジア競技大会の成功は一つのターゲットとなる。強化コーチは、日本選手権までの競技回数とパフォーマンスの波状性を把握し、今後のピーキング手法に役立てていく。また、競技スタイルやレーススペースの変更、技術の変更など大きく転換できるのも本年であることから、様々なことを想定しながらトライアルを重ねることを意識していく。

ワールドチャレンジ

本連盟としてのトレーニング的サポートは行わない一方で、アジア諸国での競技会の金銭的サポートなどは、昨年

よりも手厚く行う。また、まずはアジア競技大会でのメダル獲得をすることで、19年世界選手権および20年東京オリンピックにつながる一歩となる年であることを意図して、今後JOCから通達されるアジア競技大会の派遣枠の中に、一人でも多くの競技者が代表入りできるようにしたい。**国際競技会における戦い方の熟知と記録向上**

17年まではオリンピックおよび世界選手権の参加資格を得るためには、参加標準記録をまず突破することが前提であった。そのため、この記録が高いと感じてしまった競技者の行動として、まずは記録突破環境の良い場所で標準記録を突破していこうという強い概念が生まれたことが、我が国の近年の傾向であった。その結果、確かに標準記録を突破する競技者は存在するが、そのほとんどがどのように戦っていかの核心には迫っていないようである。陸上競技は記録系競技であるが、本質は外環境に左右されやすい対人競技であることを理解しなければならない。

例えば、かつては4×100mRよりも世界に近かった男子4×400mRは、世界の記録そのものが極端に上がったわけではないのにも関わらず、ここ10年来入賞できていない。その一要因として、各走者がレース前半のバックストレートで置いていかれるケースが多いことが挙げられる。世界トップクラスの各走者レース前半のスピードが近年の競技会では0.5秒近く上がっているのにも関わらず、日本走者のレース前半スピードには変化はみられない。

これらを個人種目に置き換えても、世界で戦うというのは、記録的要素のみでは勝負できない事が想定できる。そこで本年は、アジア競技大会代表決定後から大会当日までの期間に、国際競技会には積極的に参戦し、指導者および競技者は戦い方を熟知することや、各国際競技会のレベルを把握することを方針としたい。入賞およびメダルターゲットレベルは、19年、20年シーズンで余裕を持ってランキングを上げていくためには、よりレベルの高い競技会に参戦できることがベストである。そのため、18年シーズンは海外実績を積んで次年度に招待してもらえるようにしていく事が必要となってくる。一方で、オリンピック出場の当落線上が想定される競技者は、19年シーズンのランキング制導入のために、海外参戦が良いのか国内競技会での好記録狙いにしていく事がベターなのかを模索するために海外競技会参戦をする必要がある。従ってどのカテゴリーも、今シーズンは国際競技会の参戦をしてトライ&エラーをしていくことが必要であることや、付け焼き刃な海外転戦ではなく、経年的な参戦で力をつける事が重要であると思われる。

2018年シーズンの抱負(マラソン)

マラソン強化戦略プロジェクトリーダー 瀬古 利彦

東京オリンピックに向けて、マラソンの新しい代表選考MGCシリーズ（マラソングランドチャンピオンシップシリーズ）が始まりました。2017年度からの主要大会を選考レースに位置づけ、2年をかけて一定の成績を残した選手が2019年9月以降に開催されるMGC出場権を獲得し、同レース上位2名が選考される方式で、勝負強さと安定性を併せ持った選手を選考する事を目的にしています。

オリンピック中間年である2017年～2018年は、従来記録的には「ひとやすみ」する年になりますが、選手たちは東京オリンピックへの意識を高め積極果敢なレースを見せてくれています。福岡国際マラソンでは大迫傑（ナイキオレゴンプロジェクト）が暑い天候の

なか2時間7分19秒の好記録で快走。大阪国際女子マラソンでは初マラソンの松田瑞生（ダイハツ）が見事なネガティブスプリットで優勝。別大マラソンでは雪の舞う悪コンディションのなか、園田隼（黒崎播磨）が2時間9分台で走り、さらに東京マラソンでは設楽悠太（ホンダ）が2時間6分11秒の念願であった日本記録の更新、また井上仁大（MHPS）も2時間6分台を出すなどMGC効果が出ていると実感しています。世界の背中はまだ見えたとは言えませんが、やっと日本マラソン復活の扉が開いたと思います。この流れをさらに大きくし2020年に向けて最も強化する1年にしていく覚悟です。

2018年シーズンの抱負(長距離・マラソン)

ディレクター 河野 匡

2017年度最大の目標であったロンドン世界選手権において長距離・マラソンはメダル、入賞ゼロに終わった。男女マラソンと女子長距離で入賞以上を目標としていたが、男子マラソン9位、10位。女子10000m10位と実力を発揮しつつも僅かに及ばず課題の残る結果であった。

一方で2020年に向けた強化策は、「2020東京オリンピック強化戦略」に沿って単年度目標はほぼ達成できた。

長距離は「3000mの走力アップ」をテーマに取り組んだ結果、過去最高となる男子8名の7分台、女子5名の8分台を達成し、5000m、10000mのレベルアップに繋がる成果と評価している。

マラソンは選考方法を一新し、強化と選考を連動させることを目的にMGC（マラソングランドチャンピオンシップ）をスタートさせた。メダル獲得のため、過去の実績と現状の課題を基に世界と戦う方向性を示せたと考えている。その成果として、男子は設楽悠太（ホンダ）が16年ぶりに日本記録更新したのをはじめ2時間10分以内が15名、2時間12分以内に広げると実に29名となった。女子は大阪国際女子マラソンで初マラソンながら2時間22分44秒で優勝を果たした松田瑞生（ダイハツ）、同大会2時間23分48秒2位の前田穂南（天満屋）が好記録しかも後半のスプリットが速いネガティブスプリットで走り切った。今後さらに記録を伸ばす可能性感じるとともに若手の台頭にベテラン、中堅選手が触発されたことは間違いない。（※注3/1現在の記録、人数）

強化策の浸透と選手、コーチがモチベーションアッ

プした事で2017年度は東京オリンピックに向けて手応えを感じた1年であった。この流れを強化委員会としては2018年度を最重要年と位置づけ、最大限の強化を図りさらにレベルアップしていきたいと考えている。

そのような背景の中、2018年度長距離・マラソンの取り組みは以下の通りである。

§ 長距離

長距離においては、課題としている①大舞台でベストパフォーマンスを発揮、②ペース変化、ラストパートへの対応、③海外レースの経験不足を克服するべくジャカルタアジア大会を最重要大会と位置づけ強化していく。昨年同様「3000mの走力アップ」を軸に、ナショナルトレーニングセンター、JISS、国内外の高所トレーニングエリアの活用を医科学と連携しながら積極的に行い、5000m、10000mの強化に繋げたい。

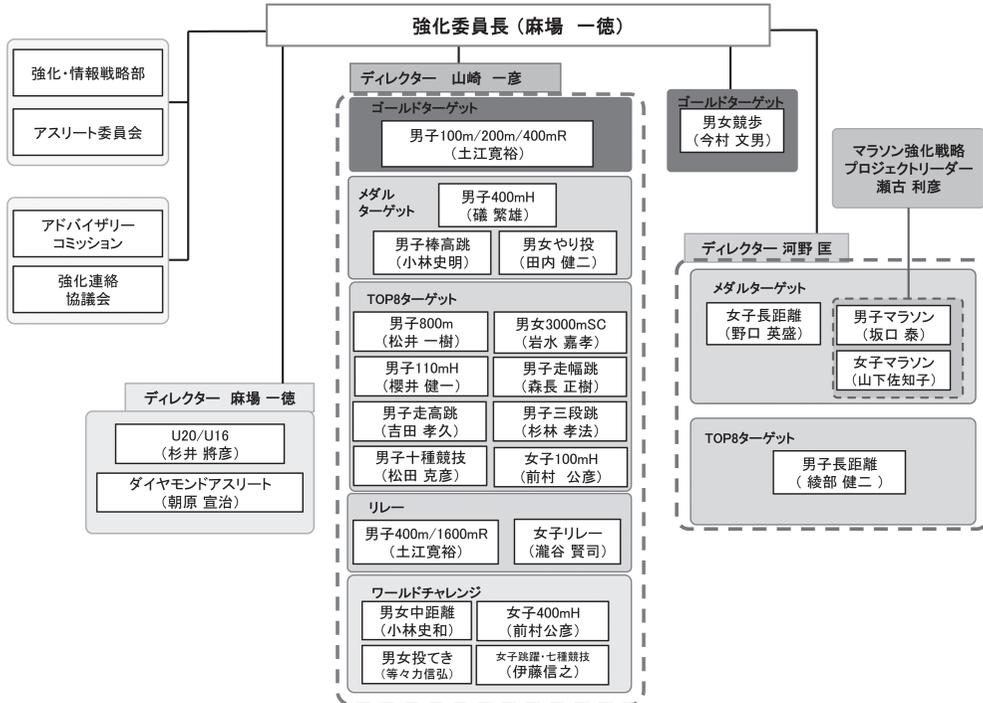
§ マラソン

MGC有資格者の徹底強化を図ると共に、ジャカルタアジア大会を東京オリンピック暑熱対策のシミュレーション大会と位置づけ現段階で検討している対策の検証を行いたい。また、オリンピックマラソンコースが正式発表される事を受けて必要とされる対策の絞り込みを始める予定である。

第2ステージを迎えるMGCシリーズは第1ステージ以上に戦いが激化するの間違いはない。今年度の成果が東京オリンピックの成否を左右すると考えている。悲願の「メダル獲得」に向けて、マラソン強化が動き始めた実感を世界と戦う自信に変えられる1年にしたい。

公益財団法人日本陸上競技連盟 強化委員会組織図

強化委員会



第8回アジア室内陸上競技選手権大会 大会報告

女子跳躍・七種競技 オリンピック強化コーチ 伊藤 信之

第8回アジア室内陸上競技選手権大会が2月1日～3日の日程で、テヘランで開催された。前回までと比べて全体的に参加者が増加傾向にあり、世界レベルのトップアスリートも出場していたのは、ポイントランキング制度が導入されることの影響があるのではないかと考えられた。

大室選手（男子60mH、決勝3位（7.81））は、現在の力をきっちり発揮して銅メダルを獲得した。山川選手（男子走幅跳、決勝5位（7m55））は、決勝の1～3回目の試技では、助走が安定しなかったが、決勝に入ってからは、着実に記録を伸ばしてきた。助走のスピードはかなり上がったが、踏切のタイミングがもう一つとなり、表彰台には上がることができなかった。中村選手（男子砲丸投、決勝11位（16m41））は、1投目ファウルの後の2投目に記録を伸ばしたがファウルの判定となっていた。撮影した動画を確認しても、明らかにファウルしたか判然としない投擲であった。3投目は少し萎縮した投げになってしまい決勝に残ることができなかった。日本の競技会では、競技中にファウルの判定について抗議を行うことは、非常に少ないように思われるが、国際試合では、現場が必要な対応をすぐに行っていくべきと示唆された。山元選手（男子砲丸投、決勝8位（17m74））は3投目に17m74と記録を伸ばし、8位に入賞した。自己記録（18m07）に近い記録であり、この次期の記録としては評価できると思われる。宮坂選手（女子三段跳、決勝5位（12m80））は、試技を重ねるに連れて助走の内容が良くなってきて、6回目に12m80まで記録を伸ばし5位に入った。ステップ、ジャンプで崩れた跳躍はなかったが、ホップがコンパクトになりすぎる傾向があり、13m以下の記録にとどまった。森選手（女子3000mCS、決勝4位（9.59.83））は、試合当日の朝から強い腹痛を訴えていたが、レースの2000mまでは、積極的

に先頭争いに加わっていた。最後の1000mで少し離されてしまったが踏みとどまって、4位に入賞した。

数十年ぶりという積雪のため、到着が半日遅れるといったことや、練習を含めて、男子の時間と女子の時間が完全に分離され、男性スタッフは女子の試合のサポートを試合会場では行うことができなかったといったことがあったが、選手達はそれぞれしっかり対応して、今できることに集中して競技に取り組んでいた。

今回の試合に対しては、昨年末に反政府デモが起こったことを受けて、スタッフ1名、選手3名の辞退者が出た。日本陸連の事務局から渉外担当を増員するなど万全の体制で臨んだが、現地に到着してみると、街は静かに落ち着いており、デモの影響など全く感じることがなく日常生活や競技にも支障を与えることは全くなかった。安全に配慮することは、最優先の事項とはなるが、過度に警戒し過ぎることはならないよう、正確な情報を参加者に伝えていくよう配慮していくことは重要と思われた。



【訂正】2018 日本グランプリ・開催期日及び種目配置

3月号に掲載したグランプリの種目配置表に訂正箇所および追加種目がありましたので、以下の表をご確認ください。

訂正 追加

(男子)

種目	強化 カテゴリー	1	2	3	4	5	6	7	8	—	9	GP ■	Non GP □
		金栗記念 県民総合	出雲陸上 浜山	水戸招待 Kスタ水戸	GG延岡 西階	木南記念 ヤンマースタジアム	布勢スプリント 布勢総合	田島記念 維新百年記念	南部記念 厚別	3ヶ国交流 厚別	北九州		
		4月7日 (土)	4月21日(土) 4月22日(日)	5月5日 (土・祝)	5月5日 (土・祝)	5月6日 (日)	6月3日 (日)	6月3日 (日)	7月8日 (日)	7月8日 (日)	10月27日(土) (予定)		
100m	Gold		■	□			■	□	□	○		2	3
200m	Gold								■			1	0
400m	TOP8		■			■				○		2	0
800m	TOP8			□				■				1	1
1500m	WC	□			■							1	1
5000m	TOP8	■			■							2	0
10000m	TOP8				□							0	1
110mH	TOP8			□		■	■		□	○	□	2	2
400mH	メダル					■			■			2	0
3000mSC	TOP8											0	0
走高跳	TOP8			■							■	1	0
棒高跳	メダル			■					■	○		2	0
走幅跳	TOP8			■				■	□	○	□	2	1
三段跳	TOP8							■	■			2	0
砲丸投	WC			□						○	■	0	1
円盤投	WC			■								1	0
ハンマー投	WC					■						1	0
やり投	メダル							■	■		□	2	0
十種競技	TOP8											0	0
実施種目数(GP種目)		1	2	4	2	4	2	4	5		2		
実施種目数(NonGP種目)		1	0	4	1	0	0	1	3		3		

(女子)

400m→300m

種目	強化 カテゴリー	1	2	3	4	5	6	7	8	-	9	GP ■	Non GP □
		金栗記念 県民総合	出雲陸上 浜山	水戸招待 Kスタ水戸	GG延岡 西階	木南記念 ヤンマースタジアム	布勢スプリント 布勢総合	田島記念 維新百年記念	南部記念 厚別	3ヶ国交流 厚別	北九州		
		4月7日 (土)	4月21日(土) 4月22日(日)	5月5日 (土・祝)	5月5日 (土・祝)	5月6日 (日)	6月3日 (日)	6月3日 (日)	7月8日 (日)	7月8日 (日)	10月最終週 (予定)		
100m	リレー		■	□			■	□	□			2	3
200m	リレー								■	○		1	0
400m	リレー		■			■						2	0
800m	WC			□				■		○		1	1
1500m	WC	■			□							1	1
5000m	メダル	■			■							2	0
10000m	メダル											0	0
100mH	WC			□		■	■				□	2	1
400mH	WC					■			□	○		1	1
3000mSC	TOP8											0	0
走高跳	WC			■						○		1	0
棒高跳	WC			■								1	0
走幅跳	WC			■				■				2	0
三段跳	WC								■	○		1	0
砲丸投	WC								■	○	■	1	0
円盤投	WC			■								1	0
ハンマー投	WC							■				1	0
やり投	メダル							■	■		□	2	0
七種競技	WC											0	0
実施種目数(GP種目)		2	2	4	1	3	2	4	4	6	1		
実施種目数(NonGP種目)		0	0	3	1	0	0	1	2		2		

400m→300m

※男女10000m、3000mSC、混成種目は第102回日本陸上競技選手権の成績をGP種目としてカウントする。※Non GP種目はこの他に主催者が追加することができる。

●2018日本グランプリシリーズ特設サイトはこちら <http://www.jaaf.or.jp/gp-series/>

2017-2018ダイヤモンドアスリート 第2回リーダーシッププログラム 報告

ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介（環太平洋大学）

ダイヤモンドアスリート（DA）とは、東京オリンピックに向けて中・長期的にエリートを育成するために選ばれた競技者である。第2回リーダーシッププログラムが1月11日、味の素ナショナルトレーニングセンターにて行われた。

プログラム① 講演

講演者：一川誠氏（千葉大学大学院人文科学研究科教授
／山口大学時間学研究所）

テーマ：心的時間の特性

実験心理学が専門で、時間を人の認知と空間の特性から研究している一川氏は、時計で管理され「誰にでも時間は等しい」と認知される時間と、人間が日々の生活の中で感じる「時間（心的時間）」は同一ではなく、心身の状態、環境等の要因によって変化することを、ご自身の研究成果などをもとに説明された。

心的時間を変動させる要因としては、刺激の強さ・明るさ、時間への注意、知覚様相、身体代謝等があげられ、実際に参加者は映像等の実験で心的時間の変動を体験した。また、スポーツで「ゾーン」に入った状態の例などを踏まえつつ、どのような状態のときに時間的精度が高まるかなどについても触れられた。

まとめとして、感じられる時間の長さやタイミングは様々な要因によって変動し、正しいことはほとんどないこと、さらに心的時間の精度は知識や経験などでは修正されないことから、見誤りは避けられないことが確認された。一方で、知覚や認知が不正確であることを認知しておくことに意味があり、その特性を利用することで、より有効な時間の使い方が可能になると示唆された。

プログラム② ディスカッション

担当者：坂井伸一郎氏（株式会社ホープス代表取締役）

本プログラムの進行役の坂井氏から、一川氏の講演をうけて振り返りの時間が設けられた。冒頭で坂井氏は、一般的に時間は変えられないという先入観があるが、一川氏はそこをチャレンジしたことに触れ、変えられないと思っているものを変えようとする時に、「一つのを分解してものごとを考える」やり方があることを確認した。また、今回のプログラム全体のテーマである「前人未踏」のことをやっていくために、突き詰めていくところや、考えて工夫することが必要になるため、そのようなヒントを手掛かりに振り返りを行った。3つのグループに分かれた参加者は、修了生やアスリート委員のフォローを受けながら、講義を振り返り、感じたことや学んだことの意見交換を行った。

プログラム③ ワークショップ

登壇者：十世三宅藤九郎氏（狂言師）

テーマ：伝統芸能体験から学ぶプロフェッショナルマインド

三宅氏は、狂言とは、室町時代（600年前）に生まれた日本の伝統芸能のなかで唯一の喜劇であることを紹介し、現代劇との違い、流儀、舞台、基本姿勢などをわかりやすく説明された。また、和泉宗家においては、1歳半から稽古を始め、3歳でプロとしての意識を持って初舞台を踏むことや、和泉流には現行曲と定められた伝統的な演目が254曲あり、稽古は師匠からの口伝（くでん）によって覚えていくことなども明かされた。

続いて、三宅氏の口伝により、参加者は実際の稽古を体験した。最初は恥ずかしさや戸惑いもあり、手本通り復唱することができなかったが、三宅氏の熱意ある稽古を受けるうちに、参加者の行動に変化が見られ、うまく復唱できるようになっていった。

三宅氏の稽古からは、伝統を引き継ぐ覚悟、プロフェッショナルとしての心意気などをうかがい知ることができた。また、稽古をつけていく際には、「稽古は本番のつもりで、本番は稽古と同じように」、「最初に取り組む姿勢が大切」など、陸上競技の練習、試合の場面でも大切と思える留意点が示され、参加者は注意深く聞いていた。

最後に、選手たちに稽古をつけた「兎」を小舞とともに披露された。まとめとして、稽古を重ねると無駄がなくなり美しくなるものであり、そういう意味で「強いものは美しい」とし、広く自分のやっていることを伝えていってほしいし、今日のように違う分野にも目を向けていってほしい、と話してワークショップを終了した。

【ダイヤモンドアスリート特設サイト】

<http://www.jaaf.or.jp/diamond/>



国際陸上競技連盟 (IAAF) 技術委員会報告

陸連事務局国際担当部長 関 幸生 (IAAF 技術委員会委員)

2018年2月2日(金)～3日(土)、IAAF本部があるモナコでIAAF技術委員会会議が開催された。

技術委員会は、「競技規則に関するすべての問題を取り扱う」とされ、委員長と17名の委員をもって構成されている。大陸別では、ヨーロッパが10名と過半数を占め、北中米カリブが3名、アジアが中国の日本の2名、オセアニア、アフリカ、南アメリカが各1名となっている。ロシアの委員は、同陸連が資格停止中であるため昨年に続き出席が認められなかった。

IAAFでは、基本的に2年ごとに開催される総会にあわせて、競技規則の修正がおこなわれる。ロンドンでの総会を控えた昨年の委員会では、各国から寄せられた100件近くもの規則修正提案を採用するか却下するかを審議に時間を費やした。修正を含む2018～2019規則が発効となった中間年の今回は、過去の委員会会議で結論が出ず持ち越しとなった懸案事項を含め、IAAFの長期展望に即した規則作りのための議論が中心となった。

規則に関するといってもその内容は多岐に及ぶため、IAAF技術委員会では3つの分科会を設け、事前検討した結果を全体会議で審議するという会議の進め方をとっている。全体会議で委員の賛成を得た案件についてのみ、カウンスル会議(理事会)で報告されることになる。規則修正にしても制度の導入にしても、まずは技術委員会の同意を取り付けることが重要となっている。3つの分科会は、「競技規則」、「施設用器具」、「テクノロジー」であり、私は2008年以来、施設用器具部会長に指名されている。施設用器具に関して言えば、今年の会議は大きな前進があったと感じた。

◆IAAF新体制と変革

3年前に就任したセバスチャン・コー IAAF会長のリーダーシップにより、2016年12月にIAAF憲章が大幅に改定された。選挙により委員が選出されるIAAF委員会は2019年までの任期をもって廃止となり、以降、IAAF理事会推薦によるコミッションとなることになっている。

コー会長就任にあたっての「陸上競技をより魅力的なものにする」という公約を受けて、委員会での議論では、「規則がどうあれば、陸上競技が魅力的なスポーツとなりうるのか」を念頭に置くよう求められている。会長からの強い意向を受けて、競技のスピードアップや改革(新たな競技スタイルやシステム)、映像や演出専門家との協調といった斬新な話題が歓迎される一方で、「陸上競技はこうあるべきだ」「以前の大会はこうだった」といった昔を懐かしむ会話はできない雰囲気が強くなっている。

IAAF主催競技会の競技運営の責任者となる技術代表(TD)の任命についても、新しい方向性が示され、より専門性の高い人材をという方針のもと、IAAF本部スタッフもTD就任することが可能となった。2020年のTDのひとりもIAAF本部から任命されることが内定しIAAF理事会の承認待ちとなっている。

以下、技術委員会で議論された主要項目について3つの分科会別に報告する。

【競技規則】

◆ルールブックの体裁変更

IAAFは、今年発行のルールブックから体裁を変更した。これまでルールブックに加え、解説のための「Referee」という出版物があったが、Refereeに記載されていた内容を、ルールブックに移動し、1冊で、ルールとその解説が理解できるようにした。

IAAFのルールブックを翻訳している日本陸連ルールブック(4月1日発行)も、同様の体裁となる予定である。

◆U23の導入(第141条1)

現在、規則上の年齢区分は、U18、U20、マスターズとなっているが、U23を加えることが提案される。ヨーロッパではすでにU23選手権が開催されており、現状を追認する形となる。しかし、U23記録は新設しない予定。

◆ロードでの助力(第144条3(f))

IAAFのラベル対象レースで、エリート選手が体調不良で倒れたにも関わらず、近くにいる役員が手を触れることなく放置した映像が世界に配信された。規則144条3(f)、助力の記述の解釈に現場の競技役員は悩まされている。

日本でも問題になり、昨年末の日本陸連マラソンメディスンセミナーでは、競技役員は、医事トラブルの際、手を触れてよいとの見解が示されているが、IAAFとしても規則で明記すべきであるとの合意が得られた。

◆同成績の際のレーン(167条5)

トラック競技で、プラスの記録(q)で次ラウンド進出者を決定するにあたり、最後の進出者が100分の1の同成績であった場合、1000分の1の数値で判定し上位者を決定するよう規則に定められている。議論になったのは、9レーンある競技場での対応。日本では、レーンに余裕があれば、1000分の1の着差に関係なく次ラウンド進出としている。同様な対応をしている国は複数あるという。しかし、IAAFとしては、現在の規則を厳密に適用し、着差がある場合には、定められた人数のみ次ラウンド進出とし、レーンに余裕があっても使用しないことが確認された。世界選手権やオリンピックではこの考え方が適用される。

◆リレーの交代(170条11)

今年2月に開催された日本陸連全国競技運営責任者会議でも説明がされたが、リレーオーダー提出後の怪我などによる競技者交代における規則の解釈が確認された。診断書が提出された場合、招集前であれば交代は認められると規則にあるが、その解釈は、「オーダー確定後」の事案であることから、該当者の入れ替えのみ可能であり、再度のオーダー変更は不可という解釈が確認された。

◆囲いに当たった投てき物(187条14注意)

円盤投とハンマー投で、投てき物が囲いに当たっても、角度線内に落下すれば有効であるという規則がある。しかし、芝生よりも手前のウレタン部分に落下した場合には、痕跡が残らないことから、無効試技とするという解釈が確認された。

◆ピットレーン規則の追加(230条7(c))

近年、IAAFが導入したピットレーンについてはルールブックで確認いただきたい。

競歩ガイドラインには記載があるものの、規則に漏れていた内容が追加される。3月初めのIAAF理事会での承認後、即発効となる。

すなわち、3枚目のレッドカードが出た事実が、最終週のピットレーン通過後に判明し、ピットでペナルティ時間を過ごすことなく、フィニッシュしてしまった場合、フィニッシュタイムのペナルティ時間を加算して公式記録とすることが、規則に追記される。

【施設用器具】

◆IAAF承認競技場の更新制度の進捗状況

IAAFは、競技場及び用器具の承認システム推進を積極的に進めている。競技場認証は、クラス1と2という2つの種別に分かれているが、この制度を担当するのも技術委員会である。この数は世界規模で増加傾向にあり、近年、この認証システムの

理解が進んできていると感じる。IAAFやアジア陸連の大会を開催するには承認は必須であり、世界記録及びアジア記録の公認にも必要である。

日本では、競技場の公認制度が定着しているが、近年、日本国内でも、IAAFクラス2認証を取得する競技場が増えてきている。日本では5年に1回、公認継続のための検定が義務付けられているが、IAAF認証は、これまで、舗装材の張り替えなどがなければ、有効期限はなく、認証は永続的に継続となっていた。

この制度の世界的普及を考えれば、国ごとの経済状況の違いがあるので、更新の手続きや更新料を設定しないにこしたことがないことは理解できるが、この制度が世界的に認知され認証施設が増えるに従い、問題も少なからず報告されるようになってきた。舗装材や緑色の劣化や破損、また地盤沈下により水たまりのきたトラックなどである。

2016年のIAAF技術委員会会議で、認証後5年で再申請(Renewal)を義務付けることが決議された。2017年2月の会議で、詳細が議論され、再申請料は新規の半額、IAAF認定の検査担当者による目視による調査報告書の提出、報告書の内容にIAAFが満足しないと認証取り消し、といった内容が決定され、2019年1月から施行されることとなった。

現在、世界で約1000まで増えた認証競技場のうち、認証から5年以上が経過した競技場は約300、さらに10年以上経過は140もあることから、更新手順については、あと6か月ほどをかけた調整の後、IAAFから発表される予定である。

◆競技場のクオリティーコントロール

競技場認証の更新手続きを円滑に進めるため、IAAFは今年初めて、各国陸連が毎年提出を義務付けられている年次報告に、国内にあるすべての認証競技場の状態を報告する項目を追加した。状況が悪いと報告のあった競技場には、最優先で検査員が派遣されることになりそうである。認証競技場に派遣された検査員がIAAFに競技場の状況を報告するためのチェックフォームも今回の会議で案が披露された。

IAAFは、競技場の質の維持(クオリティーコントロール)のために予算も確保した。認証競技場が世界に1000近くとなった今、数を増やすだけでなく、質を高めることにIAAFは意識を向け始めている。日本では競技場の継続検定が制度化されているが、IAAF認証の更新年限が5年になったのは、クオリティーコントロールの先駆けともいえる日本の方法を参考にした部分もある。

◆投てき用囲いの現地検査制度の導入

IAAF認証は、競技場だけでなく、競技で使用する用器具も対象となる。ただし、日本の検定制とは異なり、現行のIAAF規則や規定、大会で使用するにあたってのIAAF認証義務付けはない。しかし、多発する投てき競技中の危険を防止する目的で、投てき用囲いについては、現地検査も含めたIAAF認証必須化が検討されている。

IAAFは、今年の規則改正で、円盤投専用囲いや室内用の砲丸投囲いの規格をより厳しく変更した。

ハンマー投をはじめ投てき用囲いについては、IAAF認証を得ていた製品が、正しく設置されていない、劣化している、などの理由からここ数年で倒壊事故が頻発したことから、IAAFは本年から、主要競技会では使用前の検査を実施することとした。

3月1日にイギリス・バーミンガムで開催する世界室内選手権で、初めてIAAF書式の検査フォームを利用した砲丸投用囲いの検査が実施される。今後、こうした囲いの検査をIAAFは世界で実施していく予定である。

◆人工芝の検討動向

投てき実施可能な人工芝は、日本の製造会社が初めて開発し、数年来、IAAF技術委員会の席上で紹介し続けてきた。IAAF規則では「着地場所は、痕跡が残るシンダーや芝生または適当な素材でつくらなければならない」と定められているのみであり、

すでに実用化されている日本製の「投てき可能な人工芝」は、IAAF規則に反していないことが技術委員会を確認されたことを受けて、世界陸上を含むIAAF主催競技会開催規定には、インフィールドにIAAFが承認した人工芝を敷設してよいという記述がすでに加えられている。

今年、改定版が発行されるIAAF施設マニュアルにも、投てき可能な人工芝の使用を認める記述が加わることが決定している。このことにより、IAAFとして投てき可能な人工芝を正式に認知したこととなり、IAAF認証の競技場に敷設することも可能となった。

こうした動きを受け、日本陸連の公認制度においても第1種以下すべての競技場で投てき実施可能な人工芝の敷設を認める変更がなされることとなった。

◆検定員セミナー

IAAF競技場認証において、測量データの報告内容を世界的に均一化させるために、検定員(Surveyor)向けのセミナーを2018年秋に開催することが決定した。ヨーロッパ地区とアジア地区で開催予定で、英語での講義と試験が実施される。この試験に合格しなければ、今後、IAAF競技場認証のための検定に携わることができない。

世界に100名ほどの検定員のなかで、これまでの実績で、ほぼ完璧な報告書を提出してきた個人数名と日本陸連施設用器具委員会及びスペイン陸連の検定チームは、例外としてこのセミナーへの出席を免除され、自動的に名簿に登録されることとなった。

◆スパイダーカメラの推奨高さ

近年、陸上競技のテレビ中継において、スタンド上部をワイヤーでつなぎ、上空からカメラ撮影の様子を多く目にするようになった。一方で、このワイヤーやカメラに投てき物が衝突し、試技をやり直すといった事案も増加している。昨年8月に台北で開催されたユニバーシアードではやりが計3回、ワイヤーに接触した。

こうした事案を防止するため、計算がなされ、いわゆるスパイダーカメラは、上空22m以上に設置することをIAAFとして推奨することとなった。

【テクノロジー】

◆腕の動きによるSIS

不正スタートを確認装置としてSIS(スタートインフォメーションシステム)があるが、現在、IAAF承認品は、スターティングブロックに装着し、足の動きで感知する構造になっている。腕の動きで感知するSISも開発されていることが報告された。ただし認証されるかどうかはまだまだ先の話となる。

◆砲丸投用のVDM

すでに、走幅跳と三段跳では、VDM(ビデオ距離計測装置)による距離計測がおこなわれている。砲丸投用のVDMも2社が開発を進めており、近々に承認を得ることになる。今後、世界選手権やオリンピックでは、砲丸投でも光波(EDM)に代わり、VDMが使用される予定である。

◆SISの認証

IAAFは、SIS認証のための試験を続けてきた。今回、5社の製品が正式にIAAF認証品として発表された。世界選手権で使用されるSEIKO、オリンピックのOMEGAもこのリストに入っている。認証品リストは近日中にIAAFのホームページにアップされる予定である。

◆ピストル音の標準化

SISと連動し、スタートの合図をする電子式ピストルの発射音が、会社によって異なるために競技者が混乱するという苦情が少なからずあった。IAAFは、発射音の標準化を進めることとし、現在、世界選手権で使用しているSEIKOの発射音が基準となる予定である。

2017年度日本陸上競技連盟 全国競技運営責任者会議

競技運営委員会

平成30年2月17日(土)、18日(日) 味の素ナショナルトレーニングセンター

第1日目(2月17日)

事務連絡

赤峰 俊彦 幹事

・資料販売について、短冊について。

公認審判員用ウェアについて

青山商事株式会社

・昨年より陸連のオフィシャルスポンサーになった。注文を受ける体制を多くした。注文はすべて前払いでお願いしたい。

開会あいさつ・委員会の組織体制活動について

鈴木 一弘 理事・競技運営委員長

- ・陸連 VISION - 2040年に向けて、①動き、②感動、③文化の観点から力を入れて進めていく。
- ・陸連の組織変更に伴い、競技運営委員会も組織体制の変更を行った。競技部・審判部を廃止し、6つのプロジェクトチームを編成。
- ・TOKYO2020に向けては、3つのフレンドリー (1) Athlete、(2) Spectator、(3) Officialとして、競技場はステージ、主役は競技者、支える競技役員、見る・応援する観客の観点で考えている。なお、近年は、競技者のモチベーションも上がるとして、国際的にもプレゼンテーションが注目されている。
- ・今後の研修予定としては、2018年はNTOの実技研修会として、主催・共催大会、後援大会などを想定している。今後とも御協力をお願いしたい。

2018年度競技規則修改正提案 片岡 裕介 委員

・全部で42ページほどあるが、並び替え、用語を分かりやすくした部分が多い。

・162条：スタートに関して 不適切行為の明確化
下線部が追加された。5 (b) 合図に従わない、遅れることなく速やかに最終の「用意」の位置につかない (c) 音声や動作その他の方法で、他の競技者を妨害した。

⇒この場合、審判長は警告(イエロー)を与えることができる。動作…ピクつきも含まれる。ピク付いたらから必ずイエロー、ではない。

国内では、陸連の主催共催大会で適用する。その他の大会は主催者判断。例えば、これまで通り注意(グリーンカード)にとどめることも可。イエローカード2枚で「当該種目は失格」とすることも可。

・リレー：テイクオーバーゾーンの距離の変更

400mRの全て、800mRとメドレーリレーの1-2、2-3間まで30mとする。ゾーン入口からの20mを基準線(今までの中心線)とする。すべてのバトン

パスにおいて、テイクオーバーゾーンの外から走り出してはならない。

- ・180条17：制限時間 棒高跳を除き、4人以上の試技時間が1分から30秒となる。混成も同様。高さを競う競技は、優勝が決まり競技者が一人となった際、日本記録や大会記録等に挑戦する場合、定められた制限時間より1分延長しなければならない。標準記録への挑戦は対象外。

施設用器具委員会報告高木 良郎 施設用器具委員長

- ・競技場の1月24日現在518か所。昨年度より10か所ほど減少。長距離コース267か所。競歩路8か所。
- ・公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規定の改訂について、投てき実施可能な人工芝について、公認陸上競技場に関する細則の改訂について、投てき可能な人工芝の導入について、条文を追加する。規則変更に伴う全天候舗装用レーンマーキング色分けについて、競技用器具検定規程の改定について等を説明。

競技会実施報告…資料記載以外の報告はなし。

国際競技会報告

杉本 太郎 委員 関根 春幸 副委員長

関 隆史 幹事 片岡 裕介 委員

- ・世界パラ陸上競技選手権大会、IAAF世界陸上競技選手権大会について、派遣された委員より説明があった。

競技会における広告及び展示物に関する規程修改正

杉本 太郎 委員

- ・広告規程を現場でいきなり説明すると中学生、高校生などは特に驚くと思われる。各県に持ち帰って、周知徹底方法についてはしっかり検討してほしい。
- ・ブロック大会などでは指摘されないが、陸連主催・共催大会では厳しく規定されている場合も多い。選手が戸惑うことのないように周知徹底が必要として、12月に各県に通知を出している。特に中学生、高校生にはしっかり事前に伝達してほしい。

NTO研修会中間報告

中島 剛 委員

- ・11月と2月で2回実施。総勢222名が受験。11月については、競技運営委員、JTO、JRWJ、各都道府県陸協からの推薦者等193名が受験。そして、11月に受験できなかった人を対象として、今日・明日で同様の研修を実施している。試験の合格発表は、2月28日を予定しており、3月1日には各推薦団体へ

合格者の通知およびIAAFの合格証を送付する予定となっている。

マラソンメディスンセミナー報告 羽田 雄一 幹事
・マラソン参加10ヶ条について、CSCATTTについて、ラベリング対象大会の条件について、疾病傷害保険への加入について、競技者の状態確認が助力にならないことについて説明。

1日目 質疑応答

・初日のプレゼンに対して多くの議論が行われた。

事務連絡 赤峰 俊彦 幹事
明日の連絡・集合時間について。

第2日目 (2月18日)

(分科会A)

①公認競技会開催申請 鍋島 太一 委員
・事前申請の協力、結果報告、申請の締め切り、競技会コード、ロードレースについて、追加、変更、中止の申請についてなど注意を喚起。

②記録公認の申請・日本記録を認める種目について・マスターズの記録の扱い 岩脇 充司 委員
・日本記録は、①男女でそろえる、②近年の実施状況を参考にする、③世界記録と合わせる、を基本方針とする。

・記録申請の注意点、マスターズ登録について説明。
高橋 克実 陸連分室 (ベースボールマガジン社)
・今年度の申請の状況について。

③広告展示物規程の徹底 杉本 太郎 委員
・適用される大会は、基本的に日本陸連主催・共催大会、ナンバーカード広告採用競技会、テレビなどで放送される競技会である。最近の状況について、皆さんの意見をお聞きしたい。

④出場認知書の撤廃の可否 関根 春幸 副委員長
・基本的には紙媒体のやり取りはなくしていく方向で考えている。ただし、どうしても認知証提出の必要があれば、大会要項に記載し周知徹底を図る。一了承。

⑤競技会主催・主管の取り扱い

関根 春幸 副委員長
・ロードレースについて、公認競技会規程の改定が行われた。道路競走競技会について、陸協が主催・共催・主管されている場合、地方公共団体等その他の団体に主催する権利を委譲することができる。

(分科会B)

①公認審判員昇格審査結果について

羽田 雄一 幹事
・1/20審査の結果、214名が昇格候補となった。審査の際の注意事項を伝達。
・昇格審査申請におけるお願い

②トランスポンダー主任の委嘱

関根 春幸 副委員長

・トランスポンダーを使用する場合は、必ずトランスポンダー主任を置いてほしい。業務について説明。

③各スタート地点のゼロコントロールテストについて

関 隆史 幹事

・現状のゼロコンは、400m出発地点のみで行っているが、新たに、100m、200m、1500m、3000mSCのスタート地点でも簡単にゼロコンが実施できる方法を説明したので導入してほしい。

④Friendlyな競技運営を目指して 中島 剛 委員

・3つのFriendly、Athlete (競技者)、Spectator (主に観客)、Official (競技役員を含む全ての関係者)について競技会の事例をもとに紹介。

公認審判員制度の改定について 鈴木 一弘 委員長
・S級になるのに年月がかかりすぎ意欲減退してしまう審判員が少なくなかない。年齢を下げることや手の取り込み策を検討中。

(全体会) 分科会報告

関根 春幸 副委員長・中島 剛 委員

・分科会A、分科会Bでの決定事項を報告。

公認審判員のマナー向上について

鈴木 一弘 委員長

・全競技役員のコンプライアンス向上を進めていく必要がある。(言葉遣い、相手に対する敬意など)

公認競技会制度について 鈴木 一弘 委員長

・ラン・ジャパン構想：英国の「ラン・ブリテン」のようにロードランニング統括団体を持つ国もある。ランナーはデータの一括管理、陸連は登録会員増というメリット。ランニングを文化に育てていくもの。医事委員会では安全面について検討してもらっている。

全体質疑応答

Q (鳥根・白根) ナンバーカードについて、国際の条文が削除されているが。

A (片岡委員) ナンバーカードは、国際では走幅跳・三段では、今までは背中と前を両方つけなさいというルールであった。それが、国内規程に合わせる形になったので国際が削除になった。

事務連絡

関 隆史 幹事

・昼食の案内、英語版ルールブックの販売について。
閉会あいさつ 鈴木 一弘 理事・競技運営委員長
・今回の講習内容をぜひ正確に地元のほうへ伝達していただきたい。2018年度もご協力よろしくお願いたします。

第22回JAAFコーチング・クリニック 報告

普及育成委員会 原悦子

1. 日時 2018年1月7日(日)
2. 場所 日本女子体育大学 (陸上競技場及び講義室)
3. 参加者 女性指導者(今後指導者を目指す女性を含む) 53名
4. 協賛 アシックスジャパン株式会社
5. 日程

10:00	開講式	沼澤秀雄氏(普及育成委員会 指導者育成部長) 日本女子体育大学 石崎朔子氏(学長)、 渡部誠氏(陸上競技部部長)
10:15	実技講習	跳躍3種目(各45分ローテーション) 走高跳 講師:ハニカット陽子氏(普及育成委員会 普及育成部) 棒高跳 講師:近藤高代氏(近江高等学校) 走幅跳 講師:井村久美子氏(イムラアスリートアカデミー)
13:40	ワークショップ1	「元トップアスリートによるトークセッション」 磯崎公美氏(株式会社ナイキジャパン)、 長谷川順子氏(ミズノ株式会社)、近藤高代氏、 井村久美子氏、海老原有希氏(スズキ浜松AC) 進行:児玉育美氏(JAAF メディアチーム)
15:00	ワークショップ2	「女性特性(女性アスリートの三主徴など)について」 能瀬さやか氏(東京大学附属病院女性診療科・ 日本体協公認スポーツドクター) 進行:井筒紫乃(普及育成委員会 指導者育成部 副部長)
16:00	閉講式	秋元恵美氏(普及育成委員会 特別委員)

6. 報告

今回のコーチング・クリニックは、日本陸連のビジョンを生かしつつ、新たな試みとして参加者を女性の指導者(今後指導に関わりたい女性を含む)に限定し、女性指導者のレベルアップと意識の向上を目的に開催した。年齢層や指導対象も様々で、所属の都道府県も沖縄から北海道まで幅広くお集まりいただいた。

午前の部は元オリンピック選手による跳躍種目(走高跳・棒高跳・走幅跳)の実技講習とし、参加者が実際に実技実践をしながら学ぶ形式で講習を行った。各種目ともに、初心者から中上級者までの指導を行う上で必要な知識や指導法の紹介について、実際に講師の方々の素晴らしいデモンストレーションを目の当たりにしながら受講できたことに加えて、参加者自身が実技実践を通して学ぶことで、より理解を深めることができていたと思われる。初心者からの段階的な指導法や、選手が陥りやすい誤りと修正法、女子選手の特徴や選手の心理面を考慮した指導法の紹介等、今後、指導者を目指す方も理解しやすい内

容で丁寧に講習を進めていただいた。また、参加者の質問に関し、講習の場で即座に対応方法や指導法の工夫等を具体的に答えていただき、大変有益な実技講習会となった。

午後のワークショップ1では、現在は競技を引退し、それぞれ企業や指導者として陸上競技を支えご活躍されている元日本代表選手から、選手時代のモチベーションの維持や引退の話、指導者との話、また、今後、日本で女性指導者を増やしていくための方策等、それぞれの経験を含めて語っていただいた。陸上競技の様々な場面を数多く取材してきた児玉氏のスムーズな進行により、高いレベルに到達した選手の生の考え方に触れられ、指導者と選手との関わりのお話からは、選手の指導にあたる際の参考となる話を聞くことができた。全体的にこれからの日本の女性指導者の未来に勇気と元気を与えてもらえるようなパネルディスカッションとなった。

ワークショップ2では、女性アスリートの三主徴(無月経、利用可能なエネルギー不足状態、骨粗鬆症)についての正しい知識の理解を深めるとともに、指導者が正しい知識を得ることが、このようなスポーツによる体への悪影響を減らしていくことにつながると感じられた講習となった。近年では運動量に見合った食事がとれていないエネルギー不足が男女を問わず全身の様々な部位やパフォーマンスに影響を及ぼすこと、この3つの主徴は関連しており、女性にとっては疲労骨折や生涯にわたった影響も考えられること、婦人科受診について等、選手にも男性指導者にも知っておいて欲しい内容であった。

閉講式では、秋元特別委員より、女性の指導者が全体の約1割にとどまっております女性の公認コーチ資格者が一人もいない県があること、今後日本陸連では女性指導者のコーチ資格取得について支援していく旨を含めた挨拶がありクリニックが締めくくられた。

終了後には、参加者より「参加しやすかった」「みんな女性なので遠慮しないでのびのび参加できた」など好意的な感想を聞くことができ、開催した成果はあげられたと感じる。女性指導者は子育て等の関係からまだまだ人数が少ないが、今後このように工夫を凝らして機会を設け、女性指導者を増やすことに繋げていきたい。最後に、会場である日本女子体育大学と補助員の学生の皆様、ご多忙の中、今後の日本の女性の活躍のために快く講師を引き受けていただいた方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。(詳しい内容については日本陸連のHPに掲載しています。)



施設用器具委員会報告(2017-2)

施設用器具委員会

◆平成29年度に公認した競技場及び長距離競走路

- (2017.07.20～2017.11.2)
- 9381 第2新潟シティ(長) デンカビッグスワンスタジアム前～新潟市(陸)
コード番号167200 ◆42km195 10km 自転車計測
片道 新設 2017.09.01～2022.08.31
- 9382 五福(陸) 富山県富山市五福五区1942
第2種 400m 全天候 継続 2017.08.01～2022.07.31
- 9383 松任(ハ) 松任総合(運)(陸)～
▽21km0975 10km 自転車計測 往復 継続
2017.08.01～2022.07.31
- 9384 大牟田(10Km) 大牟田石炭産業科学館前～
コード番号407280 ▽10km 自転車計測 往復 新設
2017.09.01～2022.08.31
- 9385 サカイ・マリン(長) 鳥取県境港市菅竜ヶ山(陸)～
42km195 ワイヤー計測 往復 継続 2017.10.10～2022.10.09
- 9386 別海町パイロット(長) 別海町営(陸)～
▽42km195 自転車計測 往復 継続 2017.09.01～2022.08.31
- 9387 イーハートブ花巻 日居城野(陸)～
▽21km0975 10km 自転車計測 往復 継続
2017.10.01～2022.09.30
- 9388 川口市青木町公園(総)(陸) 埼玉県川口市西青木4の8の
コード番号113150 第3種 400m 全天候 新設
2017.10.01～2022.09.30
- 9389 味の素ナショナルトレーニングセンター陸上トレーニング場
東京都北区赤羽西5の2の15
第4種 400m 全天候 継続 2017.08.01～2022.07.31
- 9390 岡谷市営(陸) 長野県岡谷市長地柴宮1の9の13
第4種 300m 土質 継続 2017.10.10～2022.10.09
- 9391 小松(運)末広(陸) 石川県小松市末広2
第2種 400m 全天候 継続 2017.08.01～2022.07.31
- 9392 蒲郡市公園(グ)(陸) 愛知県蒲郡市形原町桶沢27
第4種 400m 一部全天候 継続 2017.09.01～2022.08.31
- 9393 亀岡(運)(陸) 京都府亀岡市曾我部町穴太土湖33
第3種 400m 全天候 継続 2017.10.18～2022.10.17
- 9394 備前市総合(運)(陸) 岡山県備前市久々井747
第3種 400m 全天候 継続 2016.09.01～2021.08.31
- 9395 土師ダム湖畔(ハ) 広島県土師ダムサイクリングターミナル東側道路～北側道路
▽21km0975 10km 自転車計測 周回(一部往復) 継続
2017.09.09～2022.09.08
- 9396 花咲スポーツ公園(陸) 北海道旭川市花咲町4丁目
第2種 400m 全天候 継続 2017.09.05～2022.09.04
- 9397 大館市長根山(運)(陸) 秋田県大館市東台地内
第2種 400m 全天候 継続 2017.09.01～2022.08.31
- 9398 東金アリーナ(陸) 千葉県東金市堀上1361の1
第3種 400m 全天候 継続 2017.10.01～2022.09.30
- 9399 国営昭和記念公園(20km) 東京都陸上自衛隊立川駐屯地南
側～国営昭和記念公園みんなのはらっぱ脇東側
◆20km 自転車計測 循環(一部往復) 継続
2017.09.06～2022.09.05
- 9400 新井総合公園(陸) 新潟県妙高市大字新井2200
コード番号164240 第4種(降格) 400m 全天候 継続
2017.10.17～2022.10.16
- 9401 御殿場市(陸) 静岡県御殿場市ぐみ沢658の4
第2種 400m 全天候 継続 2017.09.15～2022.09.14
- 9402 立命館大学BKCクイーンスタジアム 滋賀県草津市野路東1の1の1
コード番号254050 第4種 400m 全天候 新設
2017.10.01～2022.09.30
- 9403 伊万里市国見台(陸) 佐賀県伊万里市二里町大里甲2153の1
第3種 400m 全天候 継続 2017.09.20～2022.09.19
- 9404 荒尾(運)(陸) 熊本県荒尾市荒尾字中川後田4110の4
第4種(条件付) 400m 土質 継続 2017.10.13～2022.10.12
- 9405 日南総合(運)(陸) 宮崎県日南市大字殿所山下2200
第3種 400m 全天候 継続 2017.10.02～2022.10.01
- 9406 阿久根総合(運)(陸) 鹿児島県阿久根市赤瀬川2526の1
第4種(条件付) 400m 一部全天候 継続
2017.10.08～2022.10.07
- 9407 石垣市中央(運)(陸) 沖縄県石垣市宇登野城1409の1
第3種 400m 全天候 継続 2017.10.01～2022.09.30
- 9408 そうじゃ吉備路(ハ) 岡山県総社商工会館東～総社市スポーツセンター
21km0975 10km ワイヤー計測 循環 継続
2017.11.14～2022.11.13
- 9409 倉吉市営(陸) 鳥取県倉敷市葵町698
第3種 400m 全天候 継続 2017.06.01～2022.05.31
- 9410 福岡県平和台(陸) 福岡県福岡市中央区域内1の4
第3種 400m 全天候 継続 2017.11.06～2022.11.05
- 9411 三重交通Gスポーツの杜伊勢(陸) 三重県伊勢市宇治館町510
第1種 400m 全天候 継続 2017.10.20～2022.10.19
- 9412 猪苗代町(運)(陸) 福島県耶麻郡猪苗代町字向川原1507
第3種 400m 全天候 継続 2017.11.04～2022.11.03

9413 東海大学湘南校舎(陸) 神奈川県平塚市北金目4の1の1
第3種 400m 全天候 継続 2017.11.01～2022.10.31

9414 関西学院第2フィールド 兵庫県西宮市上ヶ原六番町3の47
第4種 400m 全天候 継続 2017.11.01～2022.10.31

9415 あいづ(陸) 福島県会津若松市門田町大字御山字村上164
第3種 400m 全天候 継続 2017.12.01～2022.11.30

9416 富士山(長) 山梨県山梨県菅船津浜駐車場
◆42km195 自転車計測 循環 継続 2017.11.10～2022.11.09

9417 加茂市(陸) 新潟県加茂市大字狭口甲1075
第4種(条件付) 400m 土質 継続 2017.11.05～2022.11.04

9418 輪島(50km歩) 石川県輪島市ふらっと訪夢前
◆50km 30km 20km 10km 5km 自転車計測
周回 継続 2017.04.17～2022.04.16

9419 さが桜(長)佐賀県佐賀県(総)(陸)前国道～佐賀県(総)(陸)
▽42km195 自転車計測 循環 継続 2017.12.26～2022.12.25

9420 名桜大学多目的(ゲ) 沖縄県名護市為又1220の1
コード番号474040 第4種 400m 全天候 新設
2017.02.22～2022.02.21

9421 米沢市営(陸) 山形県米沢市通町6の14の5
第3種 400m 全天候 継続 2017.09.26～2022.09.25

9422 延岡西日本(長) 宮崎県延岡市役所前～
◆42km195 自転車計測 往復 継続 2018.02.10～2023.02.09

9423 東京・赤羽(上流)(ハ)
▽21km0975 10km 自転車計測 往復 継続
2017.11.04～2022.11.03

9424 佐伯市(陸) 大分県佐伯市大字長谷字生ヶ迫7418
第3種 400m 全天候 継続 2017.01.10～2022.01.09

◆検定延期が承認されている競技場及び長距離競走路
(2017.11.29現在)

[北海道]とち帯広の森(ハ) 21km0975 2017.10.31～2018.10.30

[福島] 郡山(総)開成山(陸) 第3種 400m
2017.09.01～2018.03.31

[福島] 白河総合(総)(陸) 第3種 400m 2017.11.26～2018.03.31

[福島] 田村市(陸) 第3種 400m 2018.02.19～2018.09.30

[茨城] 日立市市民(運)(陸) 第3種 400m
2018.01.01～2018.03.31

[栃木] 美原公園(陸) 第3種 400m 2017.10.17～2018.03.31

[埼玉] 越谷市立しらこぼと(運)(陸)(申) 第3種 400m
2017.10.20～2018.03.31

[東京] 中央大学多摩校地運動施設(陸) 第3種 400m
2017.09.01～2018.05.31

[神奈川] 日産スタジアム付設(ハ) 21km0975
2018.03.31～2018.05.31

[神奈川] 日産スタジアム 第1種 400m 2017.12.12～2018.05.31

[京都] 京丹後市峰山途中ヶ丘公園(陸) 第4種 400m
2017.06.30～2018.06.29

[大阪] 大阪府服部緑地(陸) 第3種 400m
2017.11.13～2018.03.31

[鳥根] よしか・夢・花(ハ)(申) 21km0975
2017.09.09～2017.12.25

[広島] 広島広域公園(陸) 第1種 400m 2017.12.02～2018.04.15

[香川] 香川県立丸亀(競)付属(ハ)(申) 21km0975
2017.12.01～2017.12.31

[長崎] 大村市(陸)(申) 第4種 400m 2017.08.20～2018.08.19

[沖縄] 金武町(陸)(申) 第3種 400m 2017.08.09～2018.03.31

[沖縄] おきなわ(長) 42km195 2017.11.13～2017.12.10

◆公認が廃止となった競技場及び長距離競走路
(2017.07.20～2017.11.29)

[山形] NDソフトスタジアム山形付設天童おくのほそ道(ハ)
21km0975 2017.11.22限り

[福島] 湯のまち飯坂・茂庭っ湖(長) 42km195 2017.08.19限り

[福島] 会津高原(ハ) 21km0975 2017.07.21限り

[福島] 三浦弥平杯伊達市梁川(ハ) 21km0975 2017.10.19限り

[東京] いたばしリバーサイド(ハ) 21km0975 2017.11.10限り

[神奈川] 日本体育大学横浜・健志台キャンパス第一体育館内棒高跳場
室内棒高跳 2017.05.24限り

[石川] 津幡(運)(陸) 第3種 400m 2017.08.19限り

[京都] 同志社大学(陸) 第3種 400m 2017.06.30限り

◆種別変更のあった競技場
(2017.07.20～2017.11.29)

[新潟] 新井総合公園(陸) 第3種⇒第4種 (降格)

◆名称変更
(2017.07.20～2017.11.29)

[秋田] 大館市長根山(運)長根山(陸)⇒大館市長根山(運)(陸)

[東京] いたばしリバーサイド第2(ハ)⇒いたばしリバーサイド(ハ)

[三重] 名張市民(陸)⇒メイハンフィールド

大会観戦ガイド

第102回日本陸上競技選手権大会50km競歩 兼ジャカルタ2018アジア競技大会男子50km競歩 代表選手選考競技会 第57回全日本競歩輪島大会

50km競歩の日本選手権が迫りました！日本トップウオーカーたちが今夏にインドネシア・ジャカルタで開催されるアジア競技大会の日本代表を懸けて争います。熱い競演にご期待ください！

▼種目・スタート時間：

4月14日（土）全日本競歩輪島大会

女子高校1・2年	3km競歩	12時30分
男子高校1・2年	3km競歩	13時00分
男子全日本	10km競歩	13時30分
男子ジュニア	10km競歩	13時30分
女子全日本	10km競歩	14時30分
女子ジュニア	10km競歩	14時30分

4月15日（日）日本選手権

50km競歩	7時30分
※女子50km競歩（オープン）	7時30分

4月15日（日）全日本競歩輪島大会

女子高校	5km競歩	11時30分
男子高校	5km競歩	12時10分

▼コース：輪島50km競歩路・日本陸連公認競歩コース（1周2kmの周回コース）

▼アクセス（石川県輪島市文化会館付近）：石川県輪島市文化会館は「（道の駅輪島）ふらっと訪夢」前。

・能登空港からふるさとタクシーを利用。能登空港発着便に合わせて利用可能（要予約）。

予約先 港タクシー TEL：0768-22-2360

・能登空港より特急バス約20分「輪島駅前」下車

・「金沢」駅より特急バス約120分「輪島駅前」下車

▼問合せ：輪島市教育委員会生涯学習課スポーツ推進室

全日本競歩輪島大会実行委員会事務局

TEL：0768-23-1176

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1244/>

第20回記念長野マラソン

1998年に開催された長野冬季オリンピックを記念して1999年より開催の長野マラソン。エムウェーブ、ホワイトリンク、ピックハットなどのオリンピックが開催された会場前を通るコースに、10,000人が集います。

▼日時：4月15日（日） 8時30分スタート

▼コース：長野マラソン長距離競走路

（スタート）長野市吉田・長野運動公園

（フィニッシュ）長野市篠ノ井東福寺・長野オリンピックスタジアム

▼アクセス：

・長野運動公園

しなの鉄道北しなの線「北長野」駅下車、徒歩約20分

長野電鉄「朝陽」駅下車、徒歩約15分

長野電鉄バス「運動公園」下車

・長野オリンピックスタジアム

JR篠ノ井線、しなの鉄道線「篠ノ井」駅東口より、徒歩約30分

長野駅・篠ノ井駅よりシャトルバス

▼問合せ：長野マラソン大会組織委員会事務局

TEL：026-234-6380

（受付時間：平日9：30～17：00）

▼日本陸連WEB内大会ページ：

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1241/>

▼大会公式サイト

<http://www.naganomarathon.gr.jp>



昨年度の大会の様子



昨年度のスタートの様子

JAAF SHIGA 一般財団法人滋賀陸上競技協会

〒520-3251 湖南市朝国607 坂一郎房
TEL.0748-72-2056 FAX.077-527-3925
http://www.biwako.ne.jp/~srkshiga/

滋賀の陸上界が熱い!

今、滋賀の陸上界が熱い。日本人初の男子100m 9秒98を記録した桐生祥秀選手は滋賀県の彦根市出身。2016年リオデジャネイロオリンピックの4×100mRで銀メダルを獲得し、国民に大きな感動を与えたことも記憶に新しい。また、昨年8月、男子中学4×100mRで日本中学新記録を出した米原市立双葉中学校。42秒40の日本記録で全日本中学校陸上競技選手権優勝を勝ち取った彼らの活躍は滋賀の若い力の芽生えを象徴する。

滋賀県においては2024年に滋賀国体を開催する。本県陸上競技の拠点施設となる(仮称)彦根総合運動公園陸上競技場は、現在、建設に着手しているところである。

今まで、びわ湖毎日マラソン大会では、オリンピック、世界選手権の最終選考の舞台となる大会として全国に名を知られている本県であるが、今後は、この滋賀国体や新陸上競技場建設を契機として、小学生、中学生、高校生など若年層の競技力強化にも力を入れており、より一層の飛躍をめざしている。

しばらくは、滋賀の陸上競技から目が離せない日々が続くそうです。
(文責:事務局長 田中弘明)

JAAF KYOTO 一般財団法人京都陸上競技協会

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番2
TEL.075-322-5500 FAX.075-322-5501
http://www.krk26.jp/

昨年12月17日に行われた全国中学駅伝において、桂中学校の女子チームが史上初の4連覇を達成しました。桂中学校で活躍した卒業生で、塩見綾乃(京都文教高校)は800mで日本高校新記録を樹立しました。選手の成長を長期的にサポートしていく体制が京都陸協の伝統です。今後もその伝統を受け継ぎ、京都陸協から多くの優秀な選手が輩出されることを願ってやみません。

2月18日(日)京都マラソン2018が開催されました。午前9時スタート時の天候は晴れ気温6.7℃という絶好のコンディションのもと、16000名のランナーが西京極陸上競技場をスタートしました。大きな事故もなく15000名を超えるランナーが完走することができました。京都の歴史的街並みを眺めながら走る京都マラソンは、国内外のランナーから高い評価をいただいています。今後もよりよい大会を目指していきたいと考えております。

(文責:広報部長 相模浩史)

JAAF OSAKA 一般財団法人大阪陸上競技協会

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1 大阪市長居陸上競技場内
TEL.06-6697-8899 FAX.06-6697-8766
http://www.oaaa.jp/

OSAKA 夢プログラム事業報告—2020東京に向けて—

OSAKA 夢プログラムも3年目に入り東京オリンピックを目前に控え、その成果を問われる時期となります。今春は2月にテキサス(アメリカ合衆国)での合宿を終え、2月28日から3月12日にかけて、オーストラリア・クィーンズランド州・グリフィス大学陸上競技場において海外春季合宿練習会を実施いたしました。今期3度目となる当合宿には男子短距離陣の多田修平さん(関西学院大学)や女子やり投の宮下梨沙さん(大体大T.C)など当プログラム指定競技者8名、大阪陸協のコーチ、トレーナー5名が参加しました。ゴールドコーストは南半球に位置しこの時期は摂氏26度から31度と大阪の4月下旬から5月の気候に近く時差もなく、シーズンインに向けた調整に絶好の場所となっています。オーストラリア在住で多くのメダリストを育成されているコーチから技術・体力面に渡る幅広い指導を受け、合宿前半には地元競技会にも参加しました。4月からの本格シーズンに向けて順調に仕上がりを見せています。今夏にはアジア競技大会(ジャカルタ・インドネシア)が開催され、わずか2年後には東京オリンピックとなるこの時期、まずは6月の日本選手権大会でしっかりと記録が達成できるよう陸協を上げて強化の充実に取り組んでまいります。本事業は2015年から大阪市トップアスリート育成事業の支援を受けるとともに、大阪の経済界や陸上ファンの手厚いご支援を受けて推進しております。引き続き、皆様のご協力ご支援をお願い申し上げます。

(文責:常務理事 讃岐富男)

JAAF HYOGO 一般財団法人兵庫陸上競技協会

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号
神戸市生涯学習支援センター内
TEL.078-231-1771 FAX.078-231-1772
http://www.haaa.jp/index2.html

第7回神戸マラソンは、大会テーマ「感謝と友情」、「[[ありがとう]]」の42.195kmをキャッチフレーズで開催しました。震災復興の教訓と感謝を国内に発信する取り組みとして、被災地交流事業を継続実施し、スタートセレモニーでランナー全員が震災復興のひまわりをイメージした黄色の手袋を掲げて表現しました。また、大会終了後、大会レポートを国際陸上競技連盟(IAAF)に提出し、ブロンズラベルを取得しました。

出走者19709人、完走者18947人(96.1%)、好天にも恵まれランナーは、沿道応援者60万人の中を快適に走ることができたと思います。第8回大会もよろしくお願ひします。

「皇后杯 第36回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会」で14年ぶり4回目の優勝を達成することが出来ました。選手全員レベルの高いパフォーマンスを見せてくれました。

第101回日本陸上競技選手権大会男女20km競歩大会が、六甲アイランド甲南大学公認コースで2月18日(日)に開催されました。高橋英輝(富士通)、岡田久美子(ビックカメラ)両者ともに4連覇。U20 10kmでも兵庫の選手が優勝し盛り上がった大会となりました。

4月21・22日には第66回兵庫リレーカーニバル(グランプリ プレミア)が開催されます。本年度は神戸新聞創刊120周年記念イベントとして、世界的に活躍した県内出身の元トップアスリート(朝原宣治・竹澤健介・新井初佳・小林祐梨子)が小学生と100mを走ります。また、多田修平選手も特別ゲストとして参加予定です。その他イベントも多数計画していますので観戦よろしくお願ひします。

事務局からのお知らせ

◆◆4月7日開幕。興奮の全13戦！日本グランプリシリーズ、超人スタジアム！◆◆



日本グランプリシリーズの全貌は、特設サイトにて随時アップデート！ 全13戦の詳細をチェック！

<http://www.jaaf.or.jp/gp-series/> **超人スタジアム 陸上** **検索**

◆◆「アジアジュニア陸上」特設WEBサイトにて、カウントダウン実施中！◆◆

6月7日（木）～10日（日）に、岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催する、第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会。アジア45カ国から選ばれた選手・監督・コーチ約1,000人が参加予定の本大会特設サイトにて、カウントダウン実施中！100日前は「清流の国ぎふ」マスコットキャラクター“ミナモ”

メダル、入賞を目指す日本代表選手への応援よろしくお願ひします！

特設サイト⇒<http://www.jaaf.or.jp/ajac/18/>



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩（陸連会長）
- 友永 義治（陸連副会長）
- 八木 雅夫（陸連副会長）
- 尾縣 貢（陸連専務理事）
- 麻場 一徳（陸連強化委員長）
- 風間 明（陸連事務局長）
- 高橋 克実（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 木越 清信
- 宮田 宏
- 廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>